

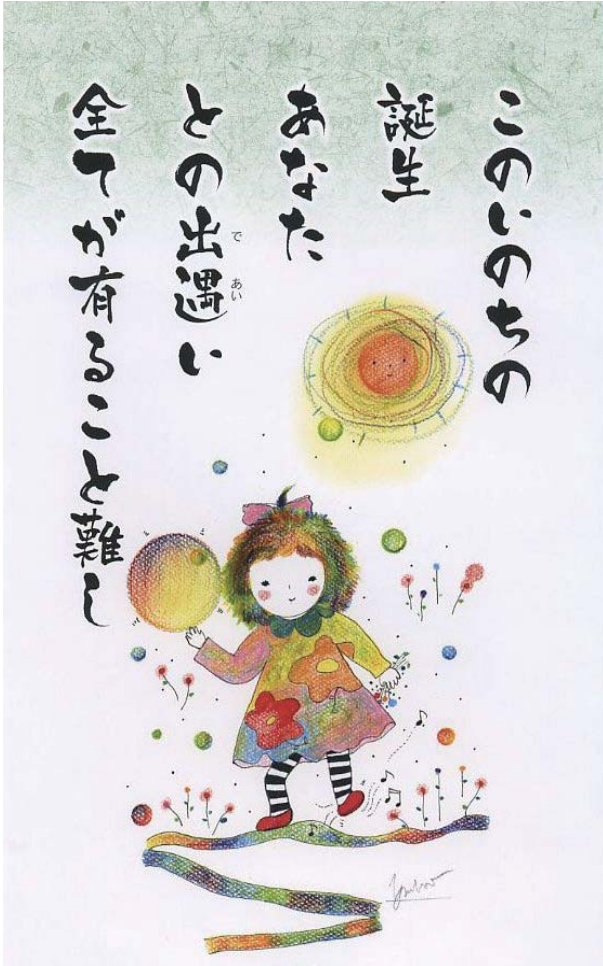
このいのちの誕生 あなたとの出遇い

全てが有ること難し

私たちが使う数字の単位には、一、十、百、千、万、億・・・とあります。日常生活の中で聞いたことのある最大の単位は兆（10の12乗）や京（けい・10の16乗）くらいまでだと思います。さらに大きな単位は「垓（がい・10の20乗）」です。そしてさらに大きい単位には10の56乗「恒河沙（ごうがしや）」、10の64乗「阿僧祇（あそうぎ）」、10の72乗「那由他（なゆた）」という単位があります。

『仏説阿弥陀經』の中には何度も「恒河沙数（ごうがしやすう）」という言葉が出てきます。「恒河」とはインドを流れるガンジス河のことであり、「沙」は砂のことを指します。つまり「恒河沙数」とはガンジス河の砂の数ということです。ガンジス河はヒマラヤ山脈を源流としベンガル湾に注ぐ全長約3000キロ、流域面積は173万平方キロに及びます。日本の国土総面積は37万7千平方キロなので、流域面積は日本の4.6倍にもなります。

お釈迦様がおられた頃のお話です。お釈迦さまが弟子の阿難尊者



とガンジス河のほとりを歩いていたら、急に足を止められ阿難尊者に「足もとの砂をすくってみてくれないか?」と言いました。阿難尊者は言われるままに、手のひらいっぱい砂をすくいあげました。お釈迦様は阿難尊者にこう言った。「ところで阿難、わかりきったことを聞くようだが、足もとの砂と手のひらの砂、どちらが多いだろうか?」。阿難尊者は「もちろん、手のひらの砂は比べ物にならないくらい少ないです」と答えると、お釈迦さまがこう話し始めました。「その通りです。この世の中に生命あるものは沢山いる。土の中で一生過ごすものも、水中の中で一生を終るものも、空を飛んで一生送るものも、目に見えないような小さなものから、人間の何倍もある大きなものまで、どれほどの生き物がこの世にいるか。数えただけでも気の遠くなるような数です。その中で人間として生を受けたものはどれくらいだろうか? それはちようど足もとの砂に比べて、手のひらの砂の数くらいだろうか。人間に生まれたことを、もう一度深く考えてみたいものです」。

お釈迦様は続いて、「阿難、手のひらの砂を爪の上のただでいいかららせてくれないか」と言いました。阿難は言われるままに爪の上に砂をのせました。すると、「阿難よ、手のひらの砂と爪の上の砂では、どちらが多いだろうか」とたずねられます。阿難は先ほどと同じように「比べ物にならないほど、爪の上の砂が少ないです」と答えると、お釈迦様は「その通りです。人間に生まれた者は手のひらの砂の数くらいいるが、人間に生まれて仏法に出遇えたことの意味をかみしめ、人間として生きることの喜びを知っている者は、爪の上の砂の数くらいなのです」と話されました。阿難尊者は「本当にその通りでございます。もう一度人間に生まれて仏法に出遇えたことを、よく考えてみたいと思います」と深くうなずかれました。

むじょうじんじんみんぼう
無上甚深微妙の法は、ひやくせんまんごう
百千万劫にもあい遇うことかたし。
われ今見聞し受持することをえたり。
けんもん じゆじ
願わくは如来の眞実義を解したてまつらん。
しんじつぎ